ルール地方案内

2009 年 **7** 月

在デュッセルドルフ日本国総領事館

ルール地方案内

目次

１．ルール地方のあらまし

２．ルール地方の歴史

３．ルール地方の特徴

４．ルール地方の主要都市

（１）エッセン

（２）デュイスブルク

（３）ドルトムント

（４）ボーフム

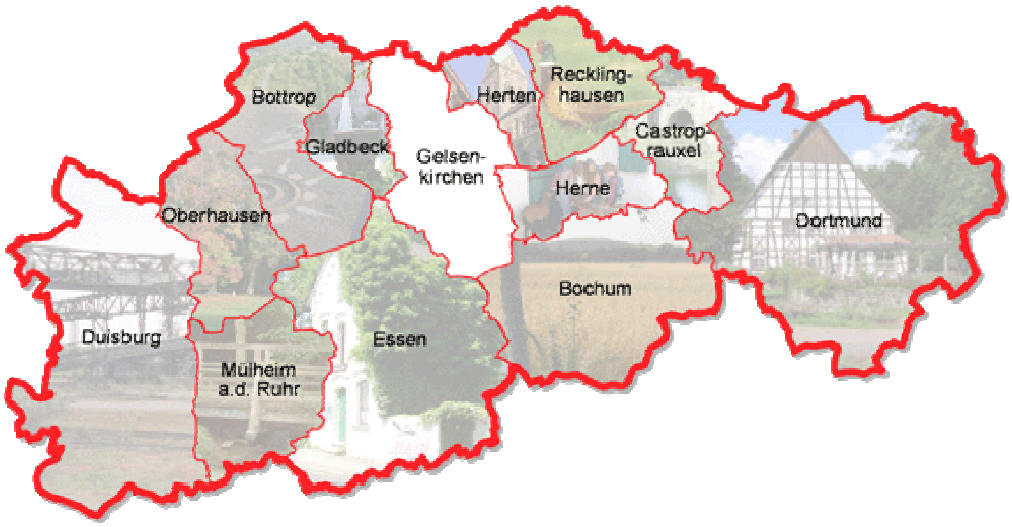
（５）オーバーハウゼン

５．ルール地方のサッカー

１．ルール地方のあらまし

ルール・メトロポリタン

オランダとの国境に程近く、ライン河の支流、ルール川流域のこの地域はヨーロッパ随一の大都市　ロンドン、パリに次ぐ人口密集地域です。
広さ　約 4335k ㎡(東京都と神奈川県の合計面積が約 4,602k ㎡)に　170 以上の異なる国籍を持つ約 524 万人が暮らすこのルール地方一体はひとつのメトロポリタンと言えるでしょう。この地方には 53 の自治体がありますが 1920 年結成のルール炭鉱開拓域同盟以来、特定の行政運営を共同で行うこともあり、現在はルール地域連合(Regionalverband Ruhr)として管理本部をエッセンに置き、メトロポリタンとして活気あふれる街づくりが行われています。
一般にルール地方とは、北部はリッペ川が境となり西はライン河、南はルール川、そして東はシュヴェルテ・ウンナ・カーメンの一連地区までの地域を指します。



「ルール地方」といえばすぐに「工業地帯」と連想するほどルール工業地帯としてのイメージが定着していますが　近代以降の炭鉱の閉鎖と重工業の撤退により革命とも言うべき構造改革が行われ、ルールの都市の多くは商業、ハイテク産業中心の街として生まれ変わり、工業用地跡は緑地公園や遊楽施設として変貌を遂げました。工場から吐き出される煤に変わり、今はなだらかな地形の緑地帯を風が吹きぬけていきます。とは言っても工場の灯がすべて消えたという訳ではなく、現在でもヨーロッパを代表する工業地帯であり続けています。　この地域を車で走りぬけるとき　都市、農地、工場が共存する個性的な景観が目の前に広がります。

２．ルール地方の歴史

この地方に都市が成立したのは大体 9 世紀後半ごろで 880 年　公文書に「小さな町」としてドルトムントの名が残っていること、ノルマン人襲撃に備えた要塞・ミュールハイムのブロイヒ城が 884 年に完成していることなどから知ることができます。それらの都市は交易商人たちによってフランドル地方やフランスへの物流の拠点として発達しました。この地域で石炭採掘が始まったのは 1298 年とされていますが 19 世紀頃までは農業中心の、まだのどかな田園地帯が広がっていました。

～ドイツ帝国・Deutsches Reich～

19 世紀に起こった第二次産業革命により、ヨーロッパ各地やアメリカの鉄鋼・機械・化学等の重工業発展の波はドイツにも押し寄せましたが、当時ドイツは多くの小国に分かれていたため、産業に必要な総経済圏が欠如していました。
1871 年ヴェルサイユ宮殿にて、プロイセン国王ヴィルヘルム 1 世が統一ドイツ帝国皇帝に即位したのをきっかけに、ドイツは大きな統一経済圏を獲得し、豊富な石炭を生産するルール工業地帯を中心として、工業力は急速に発展し、更に工業生産力はイギリス、フランス、アメリカと肩を並べる程になりました。
ドイツ帝国時代に、ルール工業地帯に巨大な製鉄所と兵器工場を持っていたクルップ社が、陸軍で使用するライフルや大砲を開発し、1886 年ダイムラー・ベンツが内燃機関を発明し、その後 20 世紀には装甲車が兵器として作られるなど、二つの大戦を通してこのルール地方は大きな意味を持つことになりました。

～大戦～

しかし長年にわたる革命と戦争は 1918 年ドイツ革命を招き、帝政は崩壊し第一次世界大戦でドイツは敗戦国となりました。領土を削られ、1320 億金マルク（金本位制による通貨で従来のドイツマルクとは異なる通貨単位ですが、現在に換算して約 40 兆 5 千億円という説があります。）の戦争賠償金の支払い計画受託を要求されました。第一次大戦はドイツ国外が戦場となったため、ルール地方の工場は無傷でした。

しかし、ドイツは賠償金を約 450 億金マルク相当と主張する家畜、農産物、工業製品など現物で払いましたがフランスはそれらを約 200 億金マルク程度とし、早期支払いを要求し 1923 年 1 月 11 日ベルギー軍と共にルール地方を占領しました。それに対し、軍事力が極端に落ち込んでいたドイツに武力抵抗は不可能であり、要求どおりの金額を払うかストライキを持って抵抗する他はなく、工場全面停止しストライキを決行しました。これによる生産力不足でドイツ経済は大混乱し、戦前から続いていたインフレが一気に加速して市民生活は崩壊しました。例えば 1923 年末にはじゃが芋 1 キロが 900 億マルクにもなりました。そこでシュトレーゼマン首相がレンテンマルクを発行したことを契機にインフレは終息しました。

1924 年頃をさかいに通貨が安定し始め、国際連盟への加入も認められ、ドーズ案（第一次世界大戦後のヴェルサイユ条約で締結されたドイツの賠償方式を緩和、新たな賠償方式として作られたもの）により戦争賠償金も軽減され、主に米国向けの輸出と米国からの投資を中心に経済も安定期に入りました。

しかし、1929 年米国を襲った経済恐慌は世界各国に影響が及び、重工業地帯のルール地方は、失業問題など真っ先に世界恐慌の直撃を受けました。

そして 1933 年、ドイツはナチスが政権を取り、ヒトラーはルール工業地帯への国家投資も盛んに行ったため、1935 年のドイツ再軍備宣言後には、それまで抑えられていた軍需産業が急速に復興しました。

～戦後～

1945 年終戦を迎えた第二次世界大戦で、ドイツは再び敗戦国となりました。第一次世界大戦と異なり、軍需産業の中心であったルール工業地帯は英米軍による戦略爆撃の重点的な攻撃目標になり、都市だけでなく輸送機関も爆撃され、生産機能は完全に麻痺しました。
東西ドイツ分裂後、ベルリンやドレスデンといった東側工業都市を失った西ドイツでは、ルール工業地帯の重要性が増してきたため、西側欧州の重工業の中心として、復興が急速に進みました。1952 年設立された欧州石炭鉄鋼共同体(ECSC)は独仏とベネルクス 3 国、イタリアが加盟し、地下資源を巡る独仏の戦争を繰り返さないこと、石炭と鉄鋼を平和的に管理しつつ共同市場を創設し、経済と産業の発展、ヨーロッパ統合の推進を目指すものでこれが今日の欧州連合(EU)の原型となっています。
EU のフィロソフィーはルールの石炭に起源すると言えそうです。

～1970 年代以降～

70 年代以降は石炭産出量の減少と安い外国製品の流入、技術的な遅れなどの原因によりルール工業地帯の生産性は下がり、失業問題や人口の流出などの問題が生じました。都市中心部にも廃墟として工場跡、労働者住宅が残され、それらはイメージを悪化させ、地域経済の促進の妨げにもなりました。ここでルール地方は構造改革を迫られることになります。新たに時代に即した産業活動の模索、産学連携、学術振興を骨子とする都市再生の道を各自治体と州政府が中心となって地域再生・再開発計画が進められて来ました。後に述べる「エムシャー・ランドシャフトパーク構想」も 90 年代に行われた都市再生プログラムのひとつです。
2002 年以降、継続して開催される芸術活動「ルール・トリエンナーレ」や 2006 年ゲルゼンキルヒェンとドルトムントが試合開催都市となったワールドカップドイツ大会、2007 年から 2011 年の間、ルール地方内各都市で開催が決まっている「ラブパレード」などのイベントを通して現在は文化・芸術・スポーツ面でルール地方は魅力あふれたメトロポリタンを印象づけています。
※　2009 年ラブパレードはボーフムでの開催が予定されていましたが中止が決定されました。2010 年はデュイスブルグ、2011 年はゲルゼンキルヒェンで開催が決まっています。

３．ルール地方の特徴

（１）ヨーロッパ文化都市 2010
(Europäische Kulturhauptstadt 2010)

RUHR2010

「エッセンとルール地方」が 2010 年のヨーロッパ文化都市に選ばれました。
ヨーロッパ文化都市、とは 1985 年　当時ギリシアの文化省大臣であったメリーナ・メアクーリ氏の提唱で幅広い文化活動－音楽、ダンス、映画などあらゆる分野－による都市の活性化と市民の文化活動の促進と水準の向上を目的として毎年 EU 加盟国の中から都市を選定しています。第 1 回目はギリシアのアテネでした。選定にあたっては　他のヨーロッパ各都市の規範となりうること、古今東西を結びつけるもの、及び効果がその時だけでなくずっと残るものを打ち出せるか、などの基準があります。
2010 年に向けて各美術館や劇場、そして各都市独自の企画だけでなくルール地方全体としての様々な活動が期待されます。デュイスブルグ、オーバーハウゼン、エッセン、ボーフム、ドルトムントにはインフォメーションセンターも設けられます。

1970 年代の「鉄鋼と炭鉱の街」から「商業と学術探求の街」への転換は創造性(Kreativität)なくしては実現し得なかったと思われます。より多くの人々が自身の創造の可能性を探り、消費者より生産者であろうとしていることは経済革新の原動力となりました。これまでは芸術・文化は経済とは違う次元のものとして考えられがちでしたがこのルール地域の発展は両者の相互作用あって為しえたものです。今後も 2010 年を経てヨーロッパを代表するメトロポリタンを目標に自治体も市民も盛り上がっています。

（２）ルール地方の日本学研究

ルール地方には 5 つの大学で学術研究、教育が行われていますがそのうちボーフム大学とデュイスブルグ＝エッセン大学には日本学科が設置され、多くの若者が日本学と日本語、更に東アジア経済を研究しています。ヨーロッパの若者だけでなく、母国である日本を違う角度から見直し研究したいという日本人留学生も多く見られます。
ヨーロッパにおける日本学「JAPANOLOGIE」の研究には 17 世紀にオランダ船と共に鎖国中の日本に渡ったエンゲルベルト・ケンペルの見聞をまとめた「日本誌」が大きく貢献しました。

(3) エムシャー・ランドシャフトパーク
(Emscher Landschaftspark)

ランドシャフトパークとは環境保存と地域発展の観点から　かつての工業用地や施設を本来あった姿に戻すことを目的とした生態系の復元と工業用施設を保存しつつ、現代に求められる要素を組み込んで文化施設や公園として再開発したものです。ルール地方は豊富な資源のもと 19 世紀半ばから鉄鋼業と炭鉱で栄えた歴史を持ちますが、炭鉱の多くは閉鉱され、生産拠点を外国や他の地域に移した工場も少なくありません。ルール地方を流れるエムシャー川流域(800k ㎡)に点在する工業跡地再開発と 150 年以上に渡って工業汚水の受け皿となってきたエムシャー川の再生を目的としたプロジェクトがエムシャーパーク構想です。

このエムシャー構想で主体となったのはノルトライン・ヴェストファーレン州が 10 年の期限付きで設立した「IBA エムシャーパーク公社」でした。公社は申請されてきたプロジェクト案を構想に合ったものか検討し、認めたものに対してはコンサルタント活動を行い、実際の事業主体は自治体や民間団体が担いました。

このプロジェクトは水(エムシャー川水系)と緑を構想の中心に据え、炭鉱や製鉄所など施設跡の保存と新たな都市景観づくりと街づくり、それによる地域住民の社会的・文化的活動の活性化、そして慣れ親しんだ建物を通して近代ドイツを築き上げた歴史への誇りと郷土愛を持ってもらおうというものです。あるものは博物館に、あるものは公園に、と専門家の手によって姿を変えましたが「産業遺産」として歴史を語る役目を果たしています。

具体例を挙げると、デュイスブルグのティッセンの製鉄所は 1985 年に操業停止されましたが、「できるだけ手を入れず、工業と歴史、自然を感じられる空間作り」をコンセプトに敷地は緑豊かな公園となり、ガスタンクはダイビングプールに、コークスや鉱石の貯蔵庫は壁を利用してクライミングスポットに、またある一角は敢えて人の手を入れない原野の状態で保存され、一度はその周辺から姿を消した野生動物、鳥類の姿も見られるようになりました。

また産業廃棄物とも言える炭鉱のぼた山にモニュメントを配置し、散策できる公園にしたりと地域の景観づくりにも役立ってます。

（４）ルール地方　産業遺産ルート
(Route Industriekultur)

ルール地方には先ほど述べたような産業遺産が点在しますが、それらは整備されたアウトバーンなどで結ばれており「Route　Industriekultur(産業遺産街道)」としてまわることができます。その総合案内所は世界遺産でもあるエッセンの Zeche Zollverein にあります。
全部で 25 箇所の施設と 15 のパノラマポイントが紹介されています。
また、サイクリングルートがあり、標識でわかりやすく案内されています。レンタルバイクのサービスも充実していて春から夏にかけては自転車を楽しむ人々をよく見かけます。
これらの見所の代表的なものとして
☆Welterbe Zollverein/ESSEN　(関税同盟炭鉱　エッセン)
☆Eisenbahnmuseum /Bochum-Dahlhausen　(鉄道博物館　ボーフム)
☆Innenhafen /Duisburg　(内港　デュイスブルグ)
☆Villa Hügel/Essen　(クルップ財閥邸宅　エッセン)
☆Landschaftspark /Duisburg　(ランドシャフトパーク・デュイスブルグ)
☆LWL-Industriemuseum Zeche Zollen/Dortmund(ｳﾞｪｽﾄﾌｧｰﾚﾝ鉱業博物館・ﾄﾞﾙﾄﾑﾝﾄ)
などがあります。いずれもルール地方の繁栄を語る上でかかせない産業遺産です。

また、多くの高炉や立抗、ガスタンクなど夜間はライトアップされているものもあり独自の工業文化を感じることができます。無機的とさえ思われる工業施設が芸術的に生まれ変わり、ルール地方を特徴付けるアクセントとなっています。

総合案内　; Besucherzentrum,Route Industriekulture
Welterbe Zollverein,Schacht　Xll
Gelsenkirchenerstr.181　45309　Essen　　電話　0201-24498932

４．ルール地方の主要都市

（１）エッセン/ Essen

人口約 58 万人。20 世紀前半まで繁栄を極めた鉄鋼財閥、クルップ家の本拠地として知られており、戦前からルール地方の中心地であった都市です。
また、美術、アートに興味のある人には魅力的な街となっており、エッセンは 2010 年のヨーロッパ文化都市に指定されています。またエッセンはドイツ映画の
「ベルンの奇蹟」(Das Wunder von Bern・2006 年)の舞台となった街です。
この映画は、1954 年サッカーワールドカップ・スイス大会決勝戦におけるドイツ代表の歴史的優勝を中心に、戦争によって引き裂かれた家族の再生を描いた作品です。

クルップ家とは？

創業者フリードリヒ･クルップ(1787～1826)がエッセンに小さな工房を構えたのが巨大鉄鋼コンツェルンの始まりで、その息子アルフレート(1812～1887)の代に鋳鋼に成功、蒸気機関車の車輪の製造を開始し、鉄道の発展と共にクルップ社も発展しました。19 世紀後半もヨーロッパは革命と戦乱が相次ぎましたが、武器の生産に目をつけたアルフレートはプロイセン国王に大砲を献上することでＰＲに成功、当時軍備強化に励む各国からの受注が舞い込み、更に事業は大きく成長しました。1873 年アルフレートによりエッセンに立てられた邸宅、ヴィラ・ヒューゲルは一族の栄光とクルップ社の繁栄を物語っています。なお 1999 年にはティッセン社と合併し、現在はティッセン・クルップ社となっています。

アールト劇場
（Aalto-Theater）

アールト劇場はエッセンにあるオペラハウスで、1988 年にフィンランドの建築家
Alvar Aalto によって建設され、1120 人を収容する事が出来ます。
1997 年に Stefan Soltesz が音楽総監督に就任以来、指揮者はもとより、オーケストラ、演出等で数々の賞を受賞し、現在ノルトライン・ヴェストファーレン州で最も良いオペラハウスと言われています。特にリヒャルト・シュトラウスの作品に関しては、国際的評価を得ています。
予約・プログラム問合せ：0201-81 22200
住所：Opernplatz 10,　45128　Essen

ツォルフェライン炭鉱業遺産郡
(Welterbe Zeche und Kokerei Zollverein)

1847 年から採掘が行われていましたが、従前分散していたエッセンの炭鉱施設を集約した炭鉱であり、1932 年に操業を開始しました。ドイツで最も成功した改変計画であったと言われています。バウハウスの建築家、フリッツ・シュップ(Fritz Schupp)とマルティン・クレマー(Martin Kremmer)によって機能主義な美しさをを強調して建造された左右対称の輪郭を持つ第 12 坑は極めて重要な建築物とされています。現在は歴史学習の場だけでなく、デザイン学校やお洒落なレストランまた、コンサートや展示会など文化活動の場として利用されています。

隣接するコークス工場、第 1,2,8 坑を含む敷地内は昔のパイプラインを補強した歩道橋や貨車用の線路上づたいに歩くなど自由に散策できますが、ガイドツアーでしか入れない施設も多く、興味のある人は是非参加してガイドの説明に耳を傾けてみるのもいいでしょう。また、展示だけでなく、施設の補修工事を通しての職業訓練も実施されるなど貴重な学びの場になっています。世界で最も美しい炭鉱といわれ、近代ドイツの発展の証人ともいうべき産業遺産として 2001 年にユネスコの世界遺産に登録されました。

住所：Zollverein, Gelsenkirchener Straße 181,45309 Essen
総合案内：0201－246810

グルーガ・パーク
(Gruga Park)

70 ヘクタールの面積を有する広大な公園は四季によって様々な花で美しく彩られ、スポーツやレストランの設備もあり、多目的な市民の憩いの場としても利用されています。敷地の中には鳥類園があったり、何百種類もの植物が育てられている植物園があったりと、訪れる毎に異なる装いを見せてくれます。
また、卓球やサッカー場、プールがあり、子供が遊べる広場も完備してあり、子供から大人まで様々なスポーツを楽しむことが出来ます。
住所：Virchowstr. 167a ， 45147　 Essen

クルップ財閥邸宅跡
(Villa Hügel)

クルップ社 2 代目のアルフレート・クルップが建てた邸宅で 1945 年までクルップ家の住居として、また 90 年代までクルップ社のレセプションに使われてきました。
今は一般公開され、クルップ家にまつわる常設展示に加え、コンサートや展覧会なども開かれています。正門、門衛所から森のような敷地を 5 分ほど進むとようやく邸の玄関に辿りつきます。
269 部屋、総床面積は 8100 ㎡もなり、細部までこだわった内装や調度品の数々、そして暖房設備や電気照明など当時の最新技術が取り入れられたこの邸宅はクルップ家の栄華がしのばれます。
住所：Hügel 15,　45133　Essen　　電話　 0201 616290

（2）デュイスブルク/ Duisburg

人口約 50 万人。ライン河とルール川の合流する街で、世界有数の河港として知られており、世界最大の内陸港システムの故に、ドイツにおける内陸水運の最も重要な分岐点となっています。
皆様は、メルカトル図法をご存知でしょうか。1569 年、フランドル出身の地理学者であるゲラルドゥス・メルカトルが考案した地図に使われた地図投影法です。
この図法は、航海用の地図の図法として重要な発明であり、地図製作の歴史に大きな功績を残すこととなりました。そのメルカトルも人生の約半分をデュイスブルクで過ごし、当地のギムナジウムで数学の教師として教鞭をとっていたこともあります。

ランドシャフトパーク・デュイスブルグ - ノルド
（Landschaftspark Duisburg-Nord）

デュイスブルグだけでなくルール地方の都市風景の象徴ともいえるのがティッセングループ製鉄所跡のこの公園です。約 230 ヘクタールの敷地は工場の建物、設備を保存しつつ市民の遊楽、憩いの場となるべく新たな要素が組み込まれています。
溶鉱炉やコークス貯蔵庫はほぼ残され、点検用の階段を使って 50m 近い高さまで昇ることができ工業文化を間近に感じることが出来ます。また工場パイプや高炉壁は児童公園の滑り台やジムに生まれ変わっています。貨車の駅は庭園になり、敷地内には農場もあり、「暗くて汚い」イメージの工場跡は今では多くの家族連れや観光客にとって魅力あふれるスポットとなっています。
住所：Emscherstr. 71,　47137　Duisburg

デュイスブルク劇場
(Theater Duisburg)

デュイスブルクの中心に位置する、この劇場は最大で 1117 人観客を収容することが出来ます。独自のアンサンブルは持っていませんが、近郊都市のボーフム、ミュルハイム、デュッセルドルフの劇場と共同で演目を行っています。
予約・プログラム問合せ：0203-3009-100
住所：Neckarstr. 1，47051　Duisburg

ヴィルヘルム・レーンブルック美術館
(Stiftung Wilhelm Lehmbruck Museum)

1929 年に設立されたこの美術館は、デュイスブルク出身の芸術家であるヴィルヘルム・レーンブルックの作品をはじめとした、ヨーロッパ全土から集められた貴重な現代彫刻作品が展示されています。
また、この美術館の隣には“美術館と外界の対話”をテーマとした、野外に彫刻の展示が行われている公園があり、美しい景観と芸術作品を楽しむことが出来ます。
住所：Friedrich-Wilhelm-Strasse 40,　47051　Duisburg

デュイスブルク動物園
(Zoo Duisburg)

2009 年 5 月に創立 75 周年を迎えたデュイスブルク動物園は、動物総数や規模の大きさだけでなく学術的見地から見ても興味深く、ヨーロッパでも重要な位置づけを占めています。総数 4000 頭の動物を間近に見ることができます。独立したイルカ館では可愛らしいイルカが様々な芸を見せてくれます。また、ヨーロッパで一番多くの種類の猿を見ることが出来ます。

住所：Zoo Duisburg AG, Mülheimer Straße 273,　47058　Duisburg

（３） ドルトムント/ Dortmund

人口約 58 万人。ノルトライン・ヴェストファーレン州の経済・商業の中心地の一つ。880 年頃には街が形成され、13 世紀にはハンザ同盟にも名を連ねています。19 世紀より産業革命が進展すると、工業都市として繁栄し、伝統的な 3 大産業として、鉱業、鉄鋼業及び醸造業の中心地となりました。しかしかつて市の経済を支えていた 20 の鉱山は全て廃坑となり、1960 年代からドルトムントは経済の徹底的な構造改革を迫られることとなり、今ではハイテク産業の街となりました。ミュンヘンと並ぶビールの街としても有名で、すっきりとして淡い苦味のドルトムント地ビールは日本人好みです。
また、2006 年サッカーワールドカップ・ドイツ大会で日本対ブラジル戦の開催地とし

てその名を日本でも知られるようになりました。2012 年には FIFA サッカー博物館のオープンも決まっており、今後も活気あふれる街として発展し続けます。

ヒロシマ広場

（Platz von HIROSHIMA）

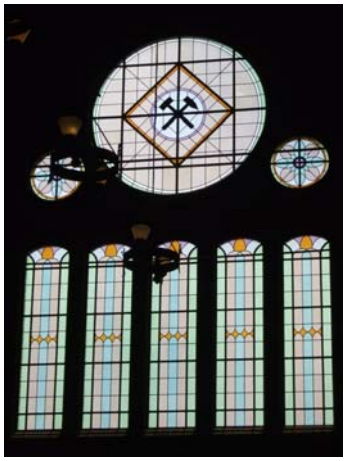
街中心部の教会の脇に小さな広場があります。その一角に 1997 年、ドルトムントの芸術家　Anselm Treese の手によるブロンズ彫刻、「ヒロシマの母」と題する作品が設置されました。それを機に市民平和団体の提唱により、それまで名前のなかったその小さな広場はヒロシマ広場、と名づけられました。　8 月 6 日には花や折鶴が奉げられています。

ヴェストファーレンパーク

(Westfalenpark)

元々は 17 世紀初頭に設立された蒸気機関の工場でしたが、その広大な敷地は 1959 年より公園となりました。公園内には街のシンボルともいえる高さ 208.56m のフローリアンタワーがそびえ、地上約 140m の展望台と回転する展望レストランからはどこまでも続くなだらかな景色が一望できます。70ha の広い園内を約 25 分で一周する豆汽車も走っています。園内にはテーマごとの庭園やカフェ、子供の遊び場、人形劇劇場など、見所が点在します。中でも 3000 種以上のバラが咲き誇るバラ園は必見です。
春から夏にかけてはフリーマーケットや野外コンサート、花火大会もあり、市民お気に入りの憩いの場となっています。2009 年は 8 月 15 日に LICHTERFEST(光の祭典)が予定されており、園内は趣向を凝らしたイルミネーションやキャンドルの灯で彩られます。22 時すぎには花火も打ち上げられます。
住所：An der Buschmühle3　44139　Dortmun d

ヴェストファーレン鉱業博物館
（LWL –Industriemuseum Zeche Zollern）



並木道に続く正門をくぐると赤レンガの建物と両脇の採掘用の立杭が目に入ります。
「労働の城館（Schloss der Arbeit）」の異名をとるこの美しい炭坑跡は 1898 年に石炭採掘のモデル施設として造られ、地下 683mの深さまで坑道の床を掘り、採掘作業を行ってきましたが 1971 年、その歴史に幕を閉じました。
博物館としての展示内容は鉱山労働のための職業訓練から、労働災害保険に関するもの、日常生活など、当時のシャワー室やランプ交換所の再現も交え、判りやすく説明されています。また、多くの工業建築を手がけた Paul Knobbe 氏設計によるネオ・ゴシック様式の建物とドイツにおける世紀末美術、ユーゲントシュティール様式の装飾が至るところに見られるのも興味深いところです。
近年改装を加え、より多くの人々に来館してほしい、ということから全館バリアフリーとなり子供の遊び場も屋内・屋外に設けられました。
住所：Grubenweg 5　44388　Dortmund

ドルトムント劇場
(Theater Dortmund)

ドルトムント劇場は、ドイツ国内で最も大きな劇場の内のひとつで、総勢 500 名以上の芸術家や舞台技術者が働いています。
ここでは、演劇やオペラのみではなく、バレエやコンサートなど様々な演目を楽しむことが出来ます。また、2008 年にはドイツ初の子供のためのオペラシアターがオープンしました。
予約・プログラム問合せ：0231-5027222
住所：Kuhstr.12　44137 Dortmund

（4）ボーフム/ Bochum

人口約 37 万人。ルール工業地帯を代表する商工業都市の一つです。19 世紀には産業革命が進展する中で炭鉱の街として発展しましたが、戦後の炭鉱の閉鎖に伴い、大学設置や学術振興など新たな道を模索しています。
ボーフムにもブンデスリーガ 1 部に属するサッカークラブ、VfL ボーフム（VfL Bochum 1848）があり、2008 年からは小野伸二選手が所属しています。

ドイツ鉱山博物館
(Deutsches Bergbau-Museum Bochum)

世界でも重要な鉱山博物館の一つであり、またドイツの博物館で最も来館者の多い博物館のうちの一つで、年間の来場者が約 40 万人に上ります。
この博物館において、来館者が一番楽しみにしているのが、1937 年に建設されたレプリカの鉱山です。地下 17m～22mに長さ 2.5ｋｍにわたって坑道が掘られており、古いものから最新の機械式採石技術まで、ドイツの近代化を支えたルール工業地帯の炭鉱現場を擬似体験することが出来ます。
住所：Am Bergbaumuseum 28,　44791 Bochum

鉄道博物館
（Eisenbahnmuseum Bochum Dahlhausen）

ドイツで最も大きく、かつての整備場・車庫の敷地がそのまま博物館として 1853 年から現在に至るまでの蒸気機関車などが 180 点以上展示されています。ここでは、ドイツ鉄道の機関車や、車両の発展について知ることが出来ます。この施設は、1916 年～1918 年の間に作られ、1925 年までは隣接する鉄道会社の多くの車両の検査や修理が行われていました。1969 年に完全に閉鎖された後、1977 年より鉄道博物館として生まれ変わりました。ここの展示品の多くが、国内で唯一のもので、非常に貴重で稀です。春から夏には実際に機関車をターンテーブルを作動させて線路に出したり、給水塔からの給水作業が間近に見学できるなど体験型のミュージアムで子供から大人まで楽しめます。

実際に機関車や施設を稼動させるには大変な労力がかかるため、2009 年は以下の日程にてイベントが組まれています。
○蒸気機関車で機関士体験　　7／19、8／19、10／18
○ワークショップ(機関車の整備体験、16 歳以上で要予約)　11／7,8
○子供のための日　7／19、8／16
○博物館祭り　9／19、20　10 時から 18 時　（入場料特別設定あり）

また、以下の日程で Hagen Hbf - Eisenbahnmuseum 間　臨時列車が運行します。
乗車券は車内で車掌から買えます。
● 蒸気機関車　　7／5、8／2、9／6、10／4

● レールバス　10／18 までの金曜日、日曜日(但し　蒸気機関車運行日を除く)
9／19、10／3、11／1

※2009 年は 3 月 1 日から 11 月 15 日の間　公開されています。
住所：Dr.- C.- Otto- Straße 191 44879 Bochum

ボーフム演劇場
(Schauspielhaus Bochum)

ボーフムにはコメディーから音楽まで 20 を超える様々な劇場が存在しますが、中でも名声を得ているのが、ボーフム演劇場です。1915 年に建設されたこの劇場では、時として著名人が公演をすることもあり人気があります。
予約・プログラム問合せ：0234 -33-330
住所：Königsallee 15　　44789 Bochum

スターライトハレ　ボーフム
ミュージカル「スターライト　エクスプレス」
(STARLIGHT EXPRESS)

イギリス人作曲家、Sir Andrew Lloyd Webber の「スターライトエクスプレス」はドイツで最も資金を費やして制作された作品といわれており、1988 年 6 月 12 日にボーフム

市で初演されました。現在までに観客動員数は 1200 万人を越え、ひとつの劇場で最も成果を挙げたミュージカルとしてギネスブックに登録されています。
舞台総面積は 1100 ㎡で、26 人のダンサーや歌手がローラースケートで走りながら繰り広げるショーは圧巻です。
予約・プログラム問合せ：0180-5152530
住所：Stadionring 24,　44791　Bochum

（５）オーバーハウゼン/ Oberhausen

人口約 21 万人。ルール地方の中心に位置する工業都市で、以前は石炭などで栄えましたが、現在は文化都市として発展しています。
1929 年に周辺の地域と合併して現在のオーバーハウゼンとなりました。
オーバーハウゼンで現在注目を集めているのが、“ドイツ国際平和村”です。

ドイツ国際平和村とは？

1967 年 7 月 6 日に、紛争地域や危機に瀕した地域の子供を助けるため、そして医療援助を行う為にドイツ市民の手によって設立されました。
平和村の活動として、傷ついた子供たちに母国では受けられない高度な治療をヨーロッパで行い、回復させて家族の元に帰すこと、そして子供たちが母国で治療できるように現地で医療活動を行うこと目指しています。その活動は次第に広まっています。
現在では様々なプロジェクトが危機的な状況にある国々で行われており、それと同時に平和村の紹介を通して平和への関心を高める活動も行っています。
また、日本から多くの寄付が平和村に寄せられており、2007 年 12 月には日本人ボランティアがオーバーハウゼン市議会から表彰されました。
現在まで平和村の活動を支えてきた日本人は総勢約 130 人にも上ります。
国際平和村ホームページ：http://www.friedensdorf.de/
写真提供：ドイツ国際平和村

オーバーハウゼン城
(Schloss Oberhausen)

オーバーハウゼン城は、建築物として価値があるだけではなく、約２８ヘクタールある美しい庭園があり、また敷地内には大衆芸術作品の展示が行われているルートヴィッヒ・ギャラリーが設けられています。
このギャラリーは、１９世紀初頭に作られたオーバーハウゼン城を利用して作られており、“時代を担うギャラリー”として様々な時代を映し出した新旧の文化やアート作品が展示されています。
住所：Konrad-Adenauer Allee 46，46042　Oberhausen

セントロ
(CentrO)

ヨーロッパ最大級の複合型商業施設で 200 以上の小売店が並ぶショッピングモール、様々なイベントが開かれるアリーナ、映画館、水族館、劇場、遊園地から成っています。かつての Thyssen 社工場跡地に建設され、オープニングに当たって路面電車の路線の延長、バス路線の設置など公共交通機関も整備されました。すっかりルール地方の遊楽地として定着して、オランダなどからも集客があり、工業用地再開発の成功例とも言えるでしょう。
住所：　Centroallee1000，　46047　Oberhausen

５．ルール地方のサッカー

他のヨーロッパ諸国と同様、ドイツでもサッカー人気は他のスポーツを圧倒しています。このルール地方は 2009/10 シーズンではブンデスリーガ 1 部に 3 クラブ、2 部に 2 クラブを擁し、クラブ間やサポーター同士のライバル意識も激しいエリアです。地元クラブの人気は強く、街をあげての応援に熱が入っています。この地域のクラブ同士の対戦は「ルールダービー」と呼ばれていますが　さらにシャルケ対ドルトムントの対戦は「Revierderby(炭鉱ダービー)」として特に盛り上がり、地元の話題を独占します。試合当日は早い時間から街中が熱気に包まれ、相手チームのサポーターの到着を迎えながらその雰囲気を楽しむ人々の姿が見られます。スタジアムで、熱いサポーター達に囲まれながらのトップレベルの試合観戦に足を運んでみてはいかがでしょうか。

ブンデスリーガ観戦について

シーズンは日本とは異なり 8 月中旬から翌年 5 月末頃までです。チケットは各クラブ公式サイトかファンショップでの入手が一般的です。
ドイツのスタジアムの多くは比較的街中心部から近く、また公共交通機関によるアクセスも整備されています。前売チケットの多くには既に近距離交通線の乗車券が含まれています。（事前に確認のこと）

スタジアムに押しかけるサポーターの中には一部マナーの悪い人も見られますが「フーリガン」と呼ばれるような他者に危害を加えたり破壊行動に出る人は殆どいないようです。駅や街中心部、スタジアム周辺は警備が厳重に行われていることもあり比較的安全に観戦が楽しめます。しかし多くの人出のため、スリなどの犯罪や他人とのトラブルなどには十分注意されたいものです。

スタジアムには時間的に余裕を持って到着していたいものです。入口でセキュリティチェックを受けます。スタジアム内には軽食（主に焼きソーセージ、ブレッツェル、ドナーなど)、飲物を売るスタンドがあります。ビールは勿論、当地の地ビールが楽しめます。ピッチでは試合直前のウオーミングアップする選手の姿が見られます。

また、日本では余り馴染みがありませんがクラブのマフラーは最もポピュラーな応援グ

ッズです。寒い季節がシーズンとなるヨーロッパでは防寒具としても重宝します。クラブ公式のシーズン限定のもの、選手の名前と番号入りのもの、特別な試合限定のものなどバリエーション豊かです。首に巻くだけで見知らぬサポーター達との連帯感も高まるでしょう。

ルール地方のブンデスリーガ所属クラブ

＊ シャルケ０４＊
（FC Schalke 04）

シャルケ 04(FC Schalke 04) は、ゲルゼンキルヒェンに本拠地を置く強豪サッカークラブです。現在はブンデスリーガ１部に属しており、1930 年代から 40 年代にかけて数々のタイトルを獲得しました。ホームスタジアムであるヴェルティンス・アリーナはドイツ初のドーム型スタジアムで 2006 年ワールドカップドイツ大会の準々決勝も行われました。
シャルケは、クラブカラーが青と白であることから"Königsblau"（王様の青）と呼ばれ、またゲルゼンキルヒェンがかつて炭鉱で栄えたことから、選手達を炭鉱夫を意味する「Knappen」と呼ぶこともあります。
また、クラブの名誉会員として先代ローマ法王、故ヨハネ・パウロ 2 世が名を連ねたこともあります。

＊VfL ボーフム＊
（Vfl Bochum 1848）

VfL ボーフム（VfL Bochum 1848）は、ボーフム市に本拠地を置くサッカークラブで、1938 年発足しました。ホームスタジアムは RewirpowerStadion です。1971 年、ブンデスリーガ昇格を果たしました。2008 年 1 月より元日本代表　小野伸二選手が活躍し、日本でも注目されるようになりました。

＊ ボルシア・ドルトムント＊
（Borussia Dortmund 09）

ボルシア・ドルトムント（BV Borussia 09 Dortmund）は、ドイツ国内のみならず、ヨーロッパをも代表する名門クラブです。ホームスタジアムは 8 万人収容の Signal Iduna Park です。
1995 年、96 年とリーグ戦を連覇、97 年にはチャンピオンズ・リーグで優勝、トヨタカップで日本遠征も果たしブラジルの強豪クルゼイロ EC を下し優勝、と輝かしい戦績を持っています。2001/02 シーズンのリーグ優勝以来、チームの経営難が表面化し、成績不振が続いていますが、それでも常にリーグ上位につけ地元では根強い人気があり、毎試合約 8 万人の大観衆がスタジアムに詰め掛けており、観客動員数はバイエルン・ミュンヘンを抑え、ドイツ国内で毎年 1 位に輝いています。クラブカラーは黄色と黒です。
前ドイツ首相ゲアハルト・シュレーダーはボルシア・ドルトムントのファンでした。

以上、紹介した 1 部リーグのクラブの他にルール地方には 2 部リーグに属するクラブもあります。

＊MSV デュイスブルク＊
（MSV Duisburg）

MSV デュイスブルク（Meidericher Spielverein Duisburg 02 e.V）は、1902 年設立の歴史あるサッカークラブです。1998 年には DFB ポカール杯では準優勝まで進みましたがそれ以降は 1 部と 2 部を行き来しています。2008/09 シーズン以降は 2 部でプレイすることになりましたが今後の躍進が望まれるところです。

＊SC ロートヴァイス　オーバーハウゼン＊
（Rot Weiß Oberhausen）

1904 年設立のクラブでクラブカラーはクラブ名の通り赤と白です。アマチュアクラブとしての歩みが長く続きましたが 2008/09 年シーズン、ブンデスリーガ 2 部昇格を果たしました。

映画「ベルンの奇蹟」

Das Wunder von Bern

自身がサッカー選手経験もあるゼーンケ・ヴォルトマン監督による 2006 年の作品です。
タイトル通り 1954 年ワールドカップ・スイス大会決勝における西ドイツ代表の奇蹟とも言うべき勝利による初優勝が主題に描かれています。
一方、物語の舞台は敗戦後のエッセンの街。サッカー好きの少年は父親は戦死した、と聞かされ母親だけで育てられますがある日、ソ連の収容所から死んだ筈の父親が帰ってきます。「パパと一緒にサッカーがしたい！」という少年と抑留生活で誇りを失い、喪失感から抜け出せない父親はすれ違いを繰り返します。そんな時、戦後初めてワールドカップへの参加を認められた西ドイツ代表に少年の憧れの地元の選手、ヘルムート・ラーンが選ばれます。何が何でもスイス・ベルンでの決勝に応援に行きたい少年は父親と対立し、家出を試みます。
西ドイツが決勝で対するは無敗神話を誇るハンガリー。予選リーグでも対戦しましたが 3 - 8 と大敗し、誰もがハンガリーの優勝を確信していました。が同点で迎えた後半 84 分、ヘルムート・ラーンのゴールで逆転、まさに「奇蹟」的優勝を手にします。また、少年と父親の関係にも「奇蹟」が…。
二度の敗戦により国際的に孤立し、多くのものを失い、貧困と喪失感で苦しんだドイツ国民にとってこの優勝は再びドイツ人としてのアイデンティティを自覚し、自信を取り戻し、希望をもたらした大変意味深いものでした。また、映画の中の家族の関係も当時多くの家族に実際に起こった体験であり、社会的背景、歴史も踏まえよく描かれています。似た戦後の経験を持つ日本人にも共感できる部分があるのではないでしょうか。
映画に登場する選手、ヘルムート・ラーンはエッセン出身、また名ゴールキーパーで、フォルトゥナ・デュッセルドルフで活躍したトニー・トゥレクはデュイスブルグ出身であるなどルール地方が昔からサッカーが盛んだったことも窺い知れます。